

今日のみ言葉 272 「恐れるな、私はあなたの右の手を固く取る」

2017.9.14

主、あなたの神。あなたの右の手を固く取って言う、
恐れるな、わたしはあなたを助ける、と。(イザヤ書41の13)

I, the LORD your God, hold your right hand; it is I who say to you,
"Do not fear, I will help you.

この世はさまざまの恐れで満ちている。幼いころは、単純に闇がこわい、という状態であるが、次第にすでに小学生のときから、友だちにいじめを受けるといった恐さにはじまり、さまざまの形で人間への恐れが生じてくる。

周囲の友だちや同僚、あるいは家族等々から無視されるのではないかと、というような何らかの恐れは、生涯つきまとう。

そして人間が必ず直面する老齢化そして死ということを見つめるとき、あるいは、この世界全体がこれからどのようにになっていくのか—という漠然とした恐れが魂の深いところにあって抜き去ることができないようにもなる。

そのようなさまざまの恐れが人間を取り巻いている。 そうしたいっさいの恐れに対して、すでに数千年まえから神は語り続けておられる。

その一つがここにあげた言葉である。 人が弱って倒れてしまいそうになるとき、しっかりと右の手をとって支えてくれる人がいたらじっさいに支えられる。

体だけでなく、深い心労ゆえに倒れてしまいそうになるとき、その心のそばに立って、私たちの存在を支え、助け起こしてくれる人がいたらどんなによいだろう。

しかし、現実には、体の重い病気にしても医者や家族さえその痛みや苦しみにどうすることもできないということがしばしばであるし、体とともに心も折れてしまったときには、そのような自分を助け起こしてくださる御方を知らないときには、生きていけなくなる。

そのような絶望的状况にあっても、私たちの右に立って、右の手をとり、支え、助け起こしてくださる御方—それが聖書に記されている神である。

キリストは、死んだと思われた人の手をとって起こされ、よみがえらせた。(マルコ福音書5:40~)

現在や将来の自分や家族、さらには周囲の世界のさまざまのことについての不安、恐れで生きる力が消耗していくとき、そしてさらには立ち上がれなくなったときでも、主は、私たちのそばにたって 「恐れるな、私があなたの右の手をとって起こし、助ける、そして御国へと導くのだから」と語りかけてくださる。

これは、数千年を通じて、無数の人たちがその苦難のときに 静かな細き声として聞き取った神からの語りかけなのである。



コマクサは、高山に咲く花として、とくによく知られています。

これは、秋田駒ヶ岳の火山による砂礫（砂、小石）が広がる場所に咲いていたものです。高さは10cm程度、花は淡紅色。ほかの植物が生育できないような場所に、緑の細かい切れ込みのある葉のなかから伸びた花茎に咲くこの花の色や形は、見る人がだれも、驚くような美しい植物です。

とくに冬場は、風雪はげしく、気温も氷点下数十度にもなるような中部から東北、北海道にかけての高山や寒冷地—シベリア東部、千島、カムチャッカに分布する、しかもこのような砂礫ばかりのような地—どこからみても可憐な美しい花が生育しうるとは思えないので、とくに印象的な花です。

人間が園芸用として作った植物は、虫害から守るために消毒をし、また水や肥料をや、日当たりも必要、温度管理や剪定等々も必要です。

しかしこのコマクサは、そのような世話などいっさい不要で、それどころか、上の写真にあるような荒涼としたこの荒れ地に、しかも何年もかかって花を咲かせるという忍耐強さを持っている植物です。

そのことを思いめぐらしているとき、聖書とその神の言葉を信じる神の民のことが浮んできました。雨がごく少ない砂漠や荒れ地の広がる地域のただなかに種まかれ、周囲の大国の侵略に脅かされ、滅ぼされていく状況にありながら、そこで世界の人々に深い影響を及ぼしていく真理の花を咲かせていったのが聖書だといえます。

現代の私たちにおいては、古代にはなかったような、異なるかたちで荒涼とした精神世界が広がっていますが、そのただなかにあって、神の御手がはたらくときには、私たちのうちに命の水が注がれ、葉が茂り、花を咲かせ、実りを与えられることを思います。

（文、写真ともT.YOSHIMURA）